

Future Design

学生とともに、先生とともに創る



VOL.5



Directed by FIT-join

学生 FDFIT-join とは？ P3

教員インタビュー

先生方の授業での工夫やそこに込められた想いをインタビューしました。



P4～P5 北崎先生



P6～P7 徳永先生



P8～P9 鞆田先生



P10～P11 池田先生



今回は大学での学びを深めた大学院生にもインタビューをしました。

院生インタビュー

P12～P13 加塩先輩

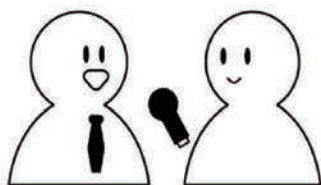
活動報告 & メンバー紹介

P14, P15

学生 FDFIT-join とは？

我々FIT-joinは、「学びのコミュニティづくり」を目標としています。

- ・ 本学の授業改善を学生の視点から考える
 - ・ 教職員と学生をつなぐ
- といった活動をしています。



FIT-joinに入るには？

福岡工業大学の学生と一緒に活動するメンバーを募集しています。
詳しくは、E棟3階FD推進室までお越しください！

代表より



FIT-join代表
幸下侑矢

今年度のFIT-joinは22名の学生で活動しており、学生アンケートや教員インタビューなどの活動を行ってきました。今年度のメンバーは1年生が過半数を占めていますが、楽しく、主体性を持って活躍してくれています！

電気工学科

北崎 訓 准教授

Q&A

Q2. 先生が取り入れている「反転学習」について詳しく教えてください。

去年オンラインになったとき、動画を見ることによって少しでも講義内容について触れて欲しかったから始めました。また、事前学習をすることで学生の理解度が分かるため、講義をする側も説明に試行錯誤できるのがいいと思っています。

Q4. 休日の過ごし方について教えてください。

以前は大学時代に忙しい研究室に所属していた名残で、休日があっても「何かしら研究をしなくてはいけないのでは」という衝動に駆られて研究をしたりして過ごしていました。最近はゆっくり過ごしています。

Q1. 授業を行う上で大切にしていることはありますか？

学生が内容を理解しているかをこまめに確認しています。また、事前学習を行って講義をする「反転学習」を取り入れ、学生の学習状況を把握した上で内容を重点的に絞って講義しています。

Q3. 先生のStreamはOPからとてもよく作られていますが、こった動画を作ることに理由はありますか？

もともと自分がYouTubeのような動画作成に興味があったのと、動画を作った当時（昨年度）に少しでも大学の雰囲気を知ってほしいと思っていたからです。CMなども作ったりし、少しでも多くの人に動画を通して講義内容や大学について知ってほしかったからです。

Q5. 先生は地域連携活動の一環としてスイートコーンの栽培をしていますが、なぜ力を入れているのですか？

まず、古賀市と連携活動する上で、古賀市がスイートコーンの栽培が盛んだったためです。さらにそこへ自分の研究しているプラズマがコーンの栽培時期をずらすことができるからです。研究室や畑で実験を行うことより実際の現場で自分の研究が役に立つのかを調べることができるいい経験になっています。

Q6. スイートコーン以外で栽培した植物はありますか？

にんじん、オクラ、枝豆、ピーマンなど実のなる植物をA棟の裏で育てています。最近は大葉を育てています。プラズマを色々な植物の種子にあてることで、プラズマが植物に与える影響を調べています。

Q7. もし、コロナが収束して旅行に行けたらどこへ行きたいですか？

アメリカのシリコンバレーに行きたいですね。昔は大学院生を連れて行っていました。アップルやグーグルで働いている日本人との交流や東大よりも頭の良い大学の見学に行ったりしていたので、また学生を連れて行きたいです。

Q8. 学生時代の思い出ややり残したことはありますか？

学生時代の思い出は、自分が剣道部に所属していたときの稽古がきつかったことです。やり残したことは長期留学をしたかったことです。今は学会や学生の引率などで海外へ行けるけど、学生時代に行くことで学生の視点で海外を見てみたかったですね。

Q9. 自分の学生生活を踏まえて、学生に伝えたいことはありますか？

大学生は自由に考えることができる最後の時期なので、よく遊んでよく学んで「高い目標を持って地道に努力」してください！



インタビューを通しての学生の感想

高城：予習プリントを取り入れているのは、事前に取り組むことで苦手意識を減らす為だということなど、授業を受けているだけでは分からないような工夫を知り、良い経験になったと感じました。

武田：先生が学生に対して思うことについて聞いた機会となったのでよかったです。

Interview

教養力育成センター

徳永 光展 教授



Q&A

Q2. 授業で新しく取り組みたいことはありますか？

今は控えています。学生同士ができるだけ知り合えるような溜まり場を作ることができれば良いなあという感じです。

遠くの親戚より近くにいる他人の方が力になる場合があるし、同じ世代だと悩みも似ている可能性が高いので、輪が広がるような取り組みを考えているところです。

Q4. 文学からどのようなことが学べますか？

普通に生きていて出会える人の数は限られており、自分が出会えないような大昔や外国の人々の生き方を作品に接することを通して知れたら、私たちの人間性の幅が広がるんじゃないかなあと。

Q1. 授業を行う上で大切にしていることと工夫していることはありますか？

学生さんを大事にし、心に何か響くようなメッセージを残すことです。

日本語表現法の授業では、学生が社会に出たときにいろんな人間関係を作っていく上で、どんな風に言葉を発したらよいか、言葉の裏にある考え方を想像できるような取り組みを行っています。

文学の授業では、どう読んだら今の若い人たちの心に届くかなと考えており、皆さんが生きる手段になるような作品や作家の生きざまを話すようにしています。

Q3. 学生に求めることはありますか？

単位のために仕方なく勉強している学生と、自分の好奇心で前向きに勉強している学生とでは大きく変わってくるので、ご両親が払っていらっしゃる学費のありがたみを受け止め、ぜひ前向きに学んでほしいです。

もちろん私たちの授業がよいものかどうかという反省もありますけれど（笑）。

Q5. 嬉しいと感じるときはどんな時ですか？

学生関係だと、私の授業に触発されたっていう反応が返ってきたり、教えてきた学生からの近況報告があるととても嬉しいです。

研究関係だと、やっぱり私たちのような物書きは、論文1本書けたら心が晴れやかになります。書けなかったら、うう～ってなる（笑）。

Q6. 先生の好きな作家や小説はありますか？

夏目漱石の作品を長く読んできたから、漱石には執着があります(笑)。他にはテーマに関して、自分が直面している状況について描かれているような本、例えば子育てや介護などのテーマを扱っている本に出会えたら、自分と結びつけたりできるので、とても惹かれます。

学生さんにも、進路や人間関係、恋愛など自らが直面している状況が描かれているような小説に接することをおすすめします。（恋愛系だと『痴人の愛』がおすすめ）

Q7. 休日はどのように過ごしていますか？

・ 仕事をしている
休みの日でも、思いついたら論文を書いています。

・ 子どもの相手をしている
小学生の子どもと公園に行ったり、ご飯を一緒に食べたりしています。

・ 疲れて寝ている
家ではゴロゴロすることが多いから、息子から“眠りん坊”って言われます(笑)。



Q8. 学生に伝えたいことは何ですか？

“人生のすごろく”で4の目を出したとして、進んだ先には挫折や後悔があるかもしれませんが、それでも、あなたが4の目を選んだのなら、その道を歩いて見える美しい花も醜い風景もどうか全部見てください。もちろん、他の目の方がよさそうに見えるかもしれないけれど、裏には恐ろしい地獄谷が待っているかもしれない。だから、安易にコロコロ行き先を変えず、自分の直観を信じて進んでほしいです。

インタビューを通しての学生の感想

幸下：文学作品に対し、作品の内容だけでなく登場人物の考えや生きざまなどにも焦点を当てて読んで行こうと思いました。また、学生に伝えたいことがとても響きました。

江口：教養科目で学生に文学の素晴らしさを伝えようと様々な特徴のある授業をしていっしょにすることがわかりました。

Interview

知能機械工学科

靱田 顕章

助教



Q&A

Q2. コロナ禍でオンライン講義が普及しましたが、その前後で授業のやり方は変わりましたか？

対面の授業は感染対策をしつつも、基本的にコロナ前と同じような形式で行っています。オンライン授業中は、どうやって学生に動画を見もらうかという点を考えました。そこで、出欠はクリッカーを使って動画内で行うようにしました。対面で質問が受け付けられないので、授業Q&Aやメールで小さなことでも質問できるようにしていました。

また、今までの対面授業では、書画カメラを利用してプリントをスクリーンに投影して授業を行っていましたが、講義室内を巡回しながら授業を行えるようにPowerPointに切り替えて授業を行うようになりました。更に、myFITで授業資料の配付も始めました。

Q1. 授業を行う上で大切にしていることは何ですか？

学んでほしい法則を省略せずに、簡単にしすぎず、具体例を出して学生が逃げないようにしています。また、講義内容が多く、ハイペースになってしまうので、黒板で講義をするのではなく、プリントの穴埋め形式で、途中式を省略しないようにして、スムーズな復習に繋がっています。更に、どうしても眠たくなってしまいう学生もいるので、寝ないように巡回しつつ授業をしています。

Q3. 授業を受ける学生に求めることは何ですか？

工学に関する授業なので、「どこに応用できるのか」、「将来的に何がしたいのか」、「具体的な機械構造物」をイメージしながら授業を受けてほしいです。それによってモチベーションも上がると思います。

また、基礎学力として数学(特に微分・積分)を使うので、徹底的に学ぶ・復習するようになってほしいと思います。

Q4. 大学時代に身につけておきたい力や身につけておく社会に出てから役に立つ力は何ですか？また、大学でやってほしいこと、やった方がよいことは何ですか？

現場での経験を学生時代にすることはできないので、インターンシップに行っておくと良いと思います。実際に行ってもイメージができていないと、「思っていたのと違うな」、「もっと良い会社があったのではないか」と感じてしまうので、行っておくべきだと思います。また、機械工学の勉強はしていて良かったと思います。私自身が一般企業に勤めていた時、新人でも意見やコメント、アイデアを求められるといった経験があったため、基礎的な部分だけでも機械工学に関する勉強はしておくべきだと感じました。

また、大学時代にやっておいた方がいいことは、「主体的に学問に触れる」、「多くの人とコミュニケーションをとる」ということです。学問については、大学の授業がきっかけとなってそこから広がっていきます。世界観を広げるためには、必要不可欠なことだと思うので、是非積極的にやってほしいと思います。

Q5. 研究活動を行う上で大切にしていることや心掛けていることは何ですか？

自分の興味に基づいて行い、常に最新情報を入手できるようにしています。チャレンジ精神を忘れることなく研究に取り組んでいます。また、工学に関する研究なので、社会貢献も含めてどこに応用できるかということ意識して研究するようにしています。

Q6. 休日はどのように過ごしていますか？

基本的には家族で過ごしています。子供が小さいのでよく公園などで遊んでいます。コロナの関係で遠出はできませんが、できるだけ一緒に過ごしています。また、合間で研究活動に必要な勉強をしたり、本を読んだりしています。



Q7. 学生に伝えたいことは何ですか？

自己分析をしっかりと、今の実力がどの程度なのか、どうすれば勉強に集中できるのかなどの自分の好みや特性をもう一度よく調べて、うまくいった事例で勉強に取り組んでほしいですね。これを是非1・2年生の間に色々チャレンジしてみて3年生以降でそのやり方でスムーズに授業を受けたりすると良いと思います。ただ、数学が苦手な学生は少しずつコツコツやっていくことをオススメしますね。

インタビューを通しての学生の感想

近藤：先生の授業に対する思いがとても伝わってきました。また、学生時代のエピソードを織り交ぜながらお話していただいたので、先生の意外な一面も知ることができ良かったです。

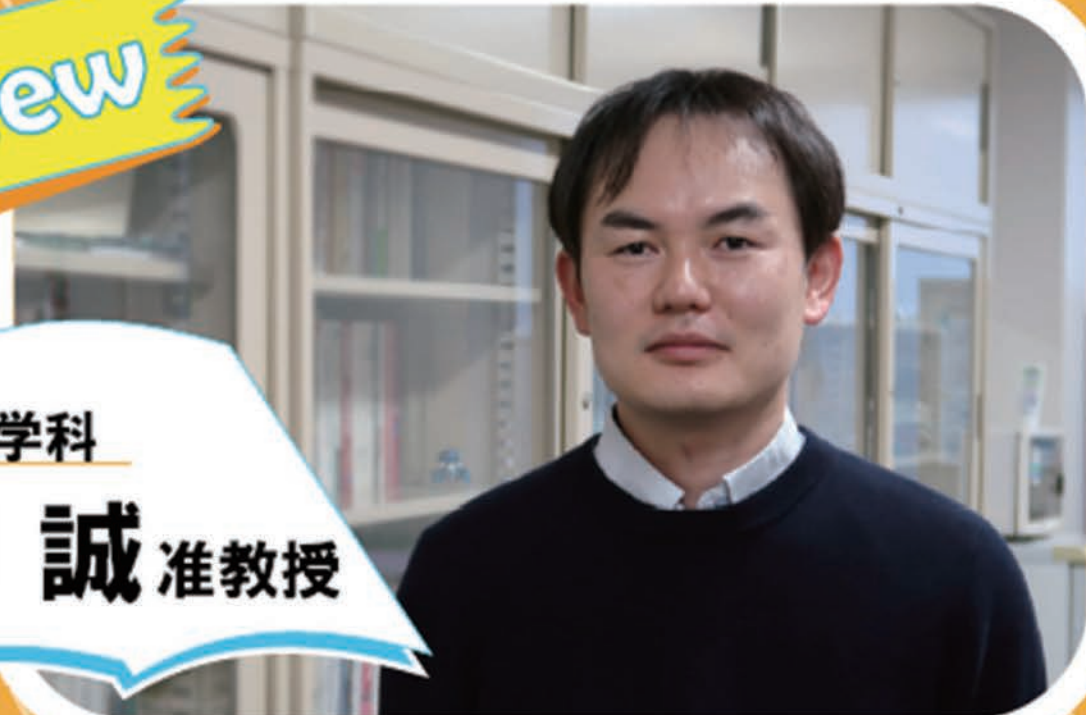
西川：先生の学生時代の話や授業で先生が心がけていることを知ることが出来、とてもいい機会になりました。

坂本：学生だからできること、しておいたほうが良いことなど知識も増えたので良かったです。

Interview

情報通信工学科

池田 誠 准教授



Q&A

Q1. 授業を行う上で大切にしていることは何ですか？

コロナ禍の前は授業時間内で理解する授業方針でしたが、2020年度からオンラインが中心の授業となり、学生は一人ひとりの理解度が異なるので、授業内で理解が難しい人は去年の動画を見直すことができるなど動画を活用した授業に変更しました。

Q2. 学生に求めることはなんですか？

ハイブリットだと基本的にはリアクションがないのでリアクションしてほしいなということがあります。YouTubeを見ることは慣れているけど、コメントを書くことや自分から情報発信することは不慣れと思うので、ぜひ授業ではコメントやリアクション機能を有効的に活用してほしいなと思います。

Q3. 教員になった理由は何ですか？

学部よりも修士まで経験すると、様々な能力を伸ばすことができるので就職活動において有利になりますが、もう少し勉強したい、研究したい、そしてその道で働きたい、何かを研究し続けることや教育に力を入れたいと考えた時に、博士を出て一般企業で働くより教員となる方が自由にできるというのが強くて、将来を考えたときにその道を目指しました。

Q4. 大学院の時の研究テーマは何でしたか？

今は普通に使われているのですが、当時注目されていた「アドホックネットワーク」について研究していました。PSPなどの端末でお互いに通信対戦をするときに利用する技術をアドホック通信と呼ぶのですが、それをバケツリレー方式でマルチホップさせるプロトコルに技術的な課題があったので、それを中心に研究し、それを他のネットワークに応用できないかなと思い研究しました。

Q5. なぜ授業形態をハイブリットにしたのですか？

2020年度、遠隔でオンデマンド配信だったため内容を理解していない人が多かったと感じたからです。そのため、2021年度は主に対面にしようと思いました。しかし、主に対面にしてしまうと体調がすぐれない人が授業に参加できないことや遠隔に慣れている人が理解しづらいといった問題もあり、その人の状況下にあった授業形態を選べるように遠隔と対面のハイブリッド授業を取り入れました。

Q6. 最後に学生にメッセージをどうぞ

情報技術は日々発展していて授業で取り扱えていない内容も多くあるため、いろんなところでアンテナを張って、自分の将来のために勉強をしてほしいです。



インタビューを通しての学生の感想

外菌：先生の学生時代のことやなぜハイブリット授業にしようか思ったのかなど詳しく知ることができてよかったです。

石坂：学生思いな先生だと改めて感じました。私も授業で学んだことだけでなく様々な技術に目を向けていきたいです。

田村：授業の時と同じく、優しい先生で、学生のことを考えて、授業を計画していると思いました。学生の立場で物事を考えてくださっている印象でした。

Interview

大学院生インタビュー

工学研究科

電気工学専攻 2年生

加塩 拓弘さん



Q&A

Q2. 今どんな研究をしているのですか。

私は電池の研究をしています。電気二重層キャパシタという蓄電池は、電極材料に活性炭を使いますが、原料や輸入コストの増加が課題です。そのため活性炭の研究は、国内から供給できる廃棄物から活性炭を作り、循環型社会を形成するための研究がされています。そして私は廃棄物材料に環境問題として有名な「海洋プラスチック」を使った研究をしています。市販の電極用活性炭の代替とするため、作製した活性炭の電極性能を比較し、条件の決定や、原因の解明、品質の改善に取り組んでいます。

Q1. 大学院に進学した理由は何ですか？

大学院に進学した一番の理由は、理解することが楽しいからです。1年生の頃は大学の勉強についていくのが大変でしたが、2年生の終わりには成績もトップになり、国家資格も合格しました。2年後期にもっと工学の勉強をしたいと思ったため、大学院でより専門的な勉強に取り組むことを決めました。

Q3. 大学院と学部の違いは何ですか？

大学院は学部とは比べ物にならない専門性が身に付けられます。研究では研究内容の専門分野に身を置くことになり、研究者や企業の方と話すこともあります。大学院の講義では各分野で研究している研究者等による最新の研究や開発について知ることができます。さらに学会発表や大学院のプログラムを通して海外に行く機会もあるため、今後の人生を豊かにするための知見が得られる機会は多いです。

Q4. 学生時代に力を入れて頑張ったことは何ですか？

修士1年生の時からFIT-inサポートという学生指導を頑張っています。学生指導のポイントですが、学生の目線で教えるように心がけています。私の強みは、成績があまり良くなかったこともあり、悩んでいる学生の気持ちを理解できることです。私と同様に、定義や言葉の意味を理解していなかったりするので、それに気づいてあげするために考えながら話を聞いています。また、学生指導において気を付けていることは「言語化すること」です。質問に来た学生にわからないことを話してもらい、その過程で理解不足なところがはっきりし、教える側も意図を汲みやすいと思います。

Q5. 趣味について教えてください。

有酸素運動を心がけていて水泳や筋トレをしています。小学生の頃から水泳もやっていて、運動の中で一番好きですね。実は友人の高山君（電気修士2年生）も一緒に通ってくれています。食べるのも大好きでよく食べ歩きや焼肉屋さんに行っています。

Q6. 勉強のコツについて教えてください。

授業中にわからないことがあったら次の授業までには解決するようにしていました。自分なりの解釈でもいいので、わからないことをかみ砕いて次の授業に臨んでましたね。大学生は時間があるので、友人と一緒に調べたり図書館に通ったりして勉強していました。友人と悩んでそれでもわからなかったら先生に聞きに行っていました。

Q7. 今後の目標を教えてください。

「電検一種」という資格取得を目指しています。もしこの資格が取れたら関西電力に入社後もゼミのようなものを開いて活動していきたいと考えています。現場の知識はそんなにないですが、理論的なところは大学でしっかりと修めることができているので、それを活かしてコミュニケーションを図り教える立場になりたいです。



インタビューを通しての学生の感想

辻田：勉学に楽しんで集中出来ていたことが今に繋がっているという話をしていたら、自分も大学生生活でしか出来ない事に楽しみながら没頭したいと思いました。

江口：自分の人生にしっかりと軸を持っており、すぐに行動できる素晴らしい先輩だと改めて思いました。

活動報告

2021

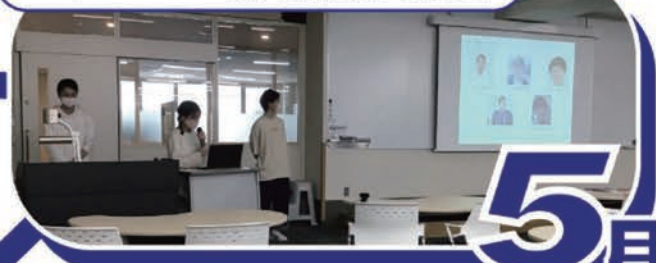
新入生オリエンテーション



4月

新入生オリエンテーションの
企画運営を行いました。

メンバー募集説明会



5月

新メンバー募集中！
FIT-join で活動しよう！

学生アンケート



7月

授業についての学生アンケートを
行いました。

FD Cafe



9月

アンケートの内容を踏まえ
先生方と意見交流を行いました。

座談会



10月

学生間の交流を深める
座談会を開催しました。

教員インタビュー



12月

大学の先生方をインタビューし
記事にまとめます。

Future Design 制作

2月

2022

Member List



平川 将太(電子情報工学科4年)
幸下 侑矢(生命環境化学科4年)
江口ひなの(知能機械工学科4年)
田村 俊介(情報通信工学科4年)
鶴嶋 真紅(生命環境化学科3年)
大内田晃輝(知能機械工学科3年)
外菌 舞 (情報通信工学科3年)
石坂 優 (情報通信工学科3年)
谷口 慧峰(情報システム工学科3年)
辻田 敬悟(知能機械工学科2年)
西川 晃平(知能機械工学科2年)

坂本 康汰(知能機械工学科2年)
大野 浩輝(知能機械工学科2年)
近藤 佑亮(知能機械工学科1年)
有富 功大(知能機械工学科1年)
千賀 英(電気工学科1年)
高城 凜(電気工学科1年)
武田 直也(電気工学科1年)
立川 裕貴(情報通信工学科1年)
中間野乃華(情報通信工学科1年)
吉見 太漢(情報システム工学科1年)
井上 登賀(システムマネジメント学科1年)

